

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第 1 1 号
2010年5月発行



たま保育園 ボランティア『ゆうきおはなしの会』のご協力をいただいて
園児達も真剣にお話に聞き入っているようです

も く じ

CONTENTS

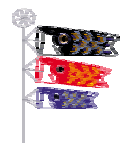
法人設立40周年記念に寄せて
理事長 宇留野光子・・・2
理事 宇留野功一・・・2
評議員 三浦剛・・・2
第三者委員 中山征勇・・・3

(有)森ファームサービス
代表取締役 森雅美様・・・3
コクヨ(株) お客様相談室
室長 脇寛美様・・・3

障害児・者施設トピックス
青嵐荘療護園・・・4
青嵐荘つくし園・・・4
青嵐荘蒔のとう舎・・・4
芳香会病院青嵐荘療育園・・・4

人に優しく 地球にも優しく
ATARIMAEプロジェクト・・・5
発展していくエコ活動・・・5

芳香会活動報告・・・6
芳香会スケジュール・・・6
編集後記・・・6



法人設立

四十周年記念

理事長 宇留野 光子



平成二十年 理事長就任
法人本部 事務局長
たま保育園 副園長

『四十年目の芳香会』

「道があるからそこを歩くのではなく、道は自分の手で作る」ことが大切である。
道を作るためには、従来型の発想にとどまらないで、新しい発想が必要である。新しい発想を持つためには、どうしたらよいのだろうか。
自らが苦しみ努力して、経験して、発想を豊にするのが一番王道であるだろう。と

この文章は、私どもの同業者であり、他法人の名誉理事長が記述したものです。

社会福祉に永年取り組んで来て、これからの社会福祉法人が何をしなければならぬのかを示唆しています。

また、身の引き締まる言葉でもあります。

四十年目を迎え、今後は心新たに【初心と変革】の調和によりバランスよく法人の舵取りを進めて行きたいと考えています。

理事 宇留野 功一



平成七年 理事就任
青嵐荘特別養護
老人ホーム施設長
結城地区在宅事業所管理者

『創立四十周年に想う』

芳香会は初代理事長赤羽輝義と賛同者数名により設立し、厚生省（当時）から昭和四十五年十二月に社会福祉法人として認可されてから四十周年を迎えました。

この年の重大ニュースは、大阪万博と赤軍派のハイジャック事件でした。世相はマイカー時代到来の反面公害問題の顕在化など、豊かさの享受とその矛盾が並存する時代の船出でありました。

以後、順風満帆とは言えないまでも、大過なく事業を継続・発展できたことに安堵と誇りを感じています。そしてこれは多くの皆様の支援の賜物であり、さらには困難な仕事に真摯に取り組む四百五十人の職員の努力によることは言うまでもありません。ご支援を頂いた皆様へは心からの感謝を、職員へはねぎらいと賞賛の言葉を贈りたいと思います。

そして時を経て今、人口の減少、少子高齢化そして政治の大きな揺らぎなど設立当初にも劣らない混沌の時代です。この不安が先行する社会において、ひとすじの光明を放てるような暖かく力強い芳香会であり続けたいと理事の一人として決意を新たにしております。

四十年間の感謝と共に、これからもご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

評議員 三浦 剛



平成九年 評議員就任
東北福祉大学総合福祉学部
社会福祉学科 教授
NPO法人「スペース空」
代表

『土壌を作る』

芳香会四十周年おめでとございます。

私が芳香会とかかわりを持たせていただくようになったから二十数年が経ちます。この二十年は社会福祉の制度がその基礎から転換した、いわば激動の二十年です。中でも社会福祉の運営に「競争」の考え方が占める割合が大きくなり、より多くの「お客様」に選ばれることが必要となりました。

しかし私たちは本当に「よいサービス」を選んでいるのでしょうか。家族にとつてだけ使い勝手の良いものであったり、金銭的な条件だけで選んでいないでしょうか。このような中で徹底的に利用者の立場に立ち、その人権をしつかりと護り、その人らしい生活を支援するサービスを提供することはとても難しいことです。しかし、よいサービスが選ばれる土壌が醸成されるまで待つわけにはいきません。

他に先駆けてよいサービスとは何かを示し、本当に利用者のための選択ができる土壌を作っていく、それが歴史と伝統をもつ芳香会の役割であると思います。



平成十三年
苦情解決第三者委員
就任
元・結城養護学校長

『創立四十周年に寄せて』

創立四十周年おめでとうございます。創立当時は高度成長期で車社会がスタートし、高校進学率の向上もあって高等学校が不足するほどの社会現象で現在の少子・高齢化は予想だにしない時代でありました。

芳香会は地域に無くてはならない医療と教育に貢献していましたが、現在の医療・福祉制度・高齢化を予想していたかと思われ、地域には皆無だった心身障害児・者や特別老人施設の運営に携わり現在の基礎を築きました。

小生のお付き合いは、昭和五十四年の養護学校義務化で義務制度にご理解を戴き施設の貸与や心身障害児の教育内容・技法等にご支援とご協力を戴いたときからです。現在はそれらに加え養護学校生徒の卒業後の進路にも携わって戴き家族からも感謝されています。

最後になりますが、創立当時の理念と信条を受け継ぎ、理事長を中心に今後も医療・福祉・教育の社会変化にも力強く対応してご発展されることをご祈念いたします。

『時代の先駆け「芳香会」』

この度は創立四十周年おめでとうございませう。現代では社会福祉をよく耳にしますし、その重要性を肌身で感じ取ることが出来ませんが、四十年前に創立されたことを知り、芳香会の志、そして深いスピリッツをかいま見る想いです。まさしく時代の先駆者です。私の知る芳香会は、高齢者・児童・障害者の福祉事業に留まらず、地域の花壇の手入れや空き缶回収などで職員の皆さんが汗をかかれています。このような事業所が地域にあり、職員の皆さんが居られることは、地域の誇りです。これからも地域と共に発展される事をご祈念申し上げます。

ココヨ株式会社

『ともに笑顔のために』

創立四十周年、心よりお慶び申し上げます。栄えある年にお取引先様よりご紹介を頂き、過日お話をさせて頂いたのもご縁かと存じます。スタッフの皆様のお集まりに参加させて頂いた際に、幾つかの施設を見学させて頂きました。元氣にご挨拶くださった入所者の方と、それを優しく見守っておられた職員の方が印象に残りました。私共は主に商品を通じ、芳香会様はサービスを通じて、提供するものこそ違いますが、利用される方がご満足された時にこぼれる笑顔は一緒だと考えます。これからも、ともにご利用者の笑顔を目指してまいります。

【命名の由来】

「芳香会」とは：

社会に恵まれない人々に芳しい香り(恵)が与えられるようにという意味が込められています。

「青嵐荘」とは：

設立当時は養護老人ホームのみの開所でした。ホームは青々とした森に囲まれた高台にあり、六、七月頃には周囲の青々とした稲田が広大な緑一色となり、雨風がその上を大海原の如く渡ってゆきます。その雨風がホームにあたる風景をもとに名づけられました。如何なる事にもくじけずに聳え立つと言う意味であります。

今年度、四十周年を迎えることとなり、理事長をはじめ、各役員代表の方、また、芳香会にご尽力ご協力をいただいております関係者の方々に言葉を頂きました。

高齢者施設である青嵐荘養護老人ホームのみの開所から、その後、様々な背景により、障害者施設、保育所、在宅事業からなる九つの事業所をかかえる現在の芳香会へと成長しました。

初代理事長亡き後、二代目赤羽伸夫が理事長に就任、現在は、三代目である宇留野光子理事長が陣頭指揮をとっています。これからもご利用者やご家族、また、地域の方々の言葉に耳を傾け、地域に根ざす芳香会を目指します。

芳香会主事業所開設の歴史

年	事業所名
1970	社会福祉法人芳香会開設
1971	青嵐荘養護老人ホーム
1973	青嵐荘特別養護老人ホーム
1977	たま保育園
1980	牛ヶ谷保育園
1980	青嵐荘療護園
1982	芳香会病院青嵐荘療育園
1991	青嵐荘ケア・アシスタンス
1991	在宅事業開始
1992	青嵐荘路のとう舎
1994	青嵐荘つくし園

障害児者施設トピックス

障害福祉の動向として、平成二十五年八月までに「自立支援法」を廃止し、「障害者総合支援法（仮称）」を制定するという方向性が示されました。その一環として、四月より「低所得者の定率負担分」を無料とする制度改正が実施され、今後その流れに沿い、障害児者制度の抜本的な改正が実施されていくものと推測されます。そのような中、今号では障害児者施設における最近のトピックスをご紹介します。

心のフレッシュ〜スヌーズレン〜

青嵐荘療護園



療護園では、昨年の七月からスヌーズレンを開始しました。スヌーズレンとは、五感へのアプローチを行い「癒し」を提供する活動です。主に、意思疎通が困難な方や寝たきりの方など障害の重い利用者を対象としています。活動中の利用者も、穏やかな表情や笑顔など様々な反応を示され、普段とは違った生活場面を楽しまれています。また、担当職員からは、「利用者の新たな一面をかいま見ることが出来る」等の感想があがっています。今後も障害の重い方へのアプローチの一つとして、創意工夫をしながら心のフレッシュを図れるよう努めてまいります。

【主なメニュー】アロマ、マッサージ、BGM プラネタリウム、足浴・手浴・日光浴 等

地域に根づく和太鼓活動

青嵐荘つくし園

会報六号で、和太鼓『和音』の記事を掲載しましたが、その後演奏を聞いた方々の口コミが広がり、各種イベントの主催者からオファーが入るまでに至りました。演奏後にはメンバーひとりひとりが演奏についてのアイデアを出し合っています。その一つとして『演奏時にはメンバー自身の声で観客へ想いを伝える』ことを行っています。また、演奏時には観客と一体になれるように共に歌ったり、楽器で共に演奏をしたり等、障害者と地域住民が共に同じ地域で生活していることが当たり前と思える関係作り・地域作りを目指していきます。

新曲の披露に向けて日々練習を続けているつくし和太鼓『和音』はこれからも皆様のご期待に応えられるような演奏をお届けしていきます。



今年もやります！ FCCC

青嵐荘路のとう舎

路のとう舎では、開設当初から年一回、『FCC』という行事を実施し、今年度は五月十五日に予定しています。『FCC』とは『路のとう舎・カルチャー・クラブ』の略で、近隣の高校や専門学校の学生に、ボランティアとして来所頂き、一緒にカレー作りや作品作り、レクレーションを行なう行事です。利用者の方々も、包丁を片手にニンジンを切ったり、玉ネギ

やジャガイモの皮むきをしたり等、慣れないカレー作りに取り組みます。自分たちで作ったカレーは格別なようで、普段はカレーを好まない利用者も笑顔で食べている様子がみつけられます。



今後も毎年実施し、地域の皆様と交流させて頂ければと考えていますので、お気軽にご参加頂ければと思います。

レッツ！ フィットネス！

芳香会病院青嵐荘療育園

療育園では、職員員のフィットネス部を昨年創設しました。職員員の肩こりや腰痛、運動不足の悩みと、「スリムになりたい！」という願望がきっかけでした。地域交流ホームで夜、月4回程活動しています。昨年入社し、エアロダンスインストラクター有資格者の職員がコーチをしています。普段は無口な彼が熱血コーチに変身し、「無理、無理」と泣き言を言う部員にも、「大丈夫。大丈夫。」と勇気を与えてくれます。一時間半位、音楽とともに体を動かしますが、楽しく、体中の筋力をまんべんなく鍛えることができ、筋力をつけることで、腰痛等の予防になります。

昨年、施設のクリスマス会で披露した時、利用者も初めて目を丸くしていましたが、一緒に歌ったり踊ったり楽しんでくれました。今後も、施設行事を中心に、機会があれば法人行事や地域行事などで披露したいと考えています。



人に優しく 地球にも優しく

ご存知ですか？

『ATARIIMAEプロジェクト』



『ATARIIMAEプロジェクト』とは、障害者があたりまえに働けるニッポンへという理念のもと、障害者雇用の底上げに向けて平成二十年から開始された事業です。この事業は、厚生労働大臣であった舛添議員の呼びかけで、歌手の松浦亜弥さんをサポーターリーダーに、東国原宮崎県知事等を公式サポーターとしています。全国では三千以上の企業が登録し、茨城県内では五十三社が参加しています。

日本では障害者雇用促進法により障害者を一定の割合以上雇用する義務があります。現在では二十人に一人が障害者とされ、働ける年齢の障害者は三百六十万人いるそうです。しかし定められた雇用率（一・八％）を達成している企業は四割、茨城県内では五割でしかありません。芳香会では、約十年前より障害者雇用に力を入れ、現在では合計八人の障害者を雇い入れています。そこで芳香会でも『ATARIIMAEプロジェクト』の想いに賛同し、企業サポーターに登録しました。

障害者自身に働く能力がない訳でも意欲に欠けている訳でもありません。障害者の個性が活かされる社会は、全ての人が気持ちよく働ける社会につながっていくことでしよう。

そんなあたりまえの明日へと発展していく動きに私達も協力しています。



発展していくエコ活動



平成二十一年度には、様々なエコ活動を行って参りました。そのエコ活動の中で、県道沿い花壇の整備やリサイクル収益金の一部と芳香会で集めた募金をハイチ地震義援金とするといった『エコ活動からの発展』に取り組んできました。平成二十二年度もエコ活動からの発展に取り組む、様々な社会貢献を形にしていきたいと思います。

花いっぱい運動

青嵐荘療護園の活動「園芸クラブ」と協力し合い、様々な花の苗を生育中です。平成二十二年には、一年を通じて上大野グラウンド前の花壇を彩っていきます。

花壇植栽予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ビオラ		植替え作業	センエチコウ、サルビア、メソボジウム			
ネモフィラ			日々草			

空飛ぶ車いす活動

空飛ぶ車いすとは、日本社会福祉弘済会が架け橋として、工業高校生が廃棄される車いすを修繕し、必要とする世界の人たちへ送るという国際ボランティア活動です。

芳香会ではその活動に共感し、「車いす提供ボランティア」として活動支援をしてまいります。また車いすの輸送費やタイヤ購入費として、書き損じはがきの収集にも協力し、各事業所にて回収ボックスを設置しています。

十三年の実績が認められました



青嵐荘路のとう舎では、芳香会全体としてリサイクル活動を始める前から独自のアルミ缶リサイクル活動を行ってまいりました。その回収活動期間は十三年を超えています。平成二十一年度には、その実績が認められ、アルミ缶リサイクル協会から「アルミ缶回収協力者表彰」を頂きました。



この活動は、路のとう舎のご利用者・職員の力だけでなく、芳香会の他施設との連携や地域の方々のご協力があつてこそのものであります。今後更にごこの輪を広げていきたいと考えています。これからもリサイクル活動へのご協力頂ければ幸いです。

有難う御座います

平成二十年度に引き続き株式会社のはら様よりご寄付を賜り、上大野地区だけでなく結城・尾崎地区にも軽トラック二台目を配備する事が出来ました。前述の空き缶リサイクル活動でも、回収・運搬に大活躍しています。



株式会社のはら様のご厚意に心より感謝申し上げます。



芳香会活動報告

新しい仲間



平成二十二年三月二十九日、新任職員の入社式を行い、例年より少数ではありますが、八名の精鋭達が入社しました。

前頁でA T A R I M A E プロジェクトについて記載しておりますが、新任職員の中に結城養護学校を卒業しました堀越さんが仲間入りしました。式典の中での新任職員抱負発表の際には、「元氣なあいさつに気を付けながら、一生懸命仕事をしていきたい」と意志を表明し、その姿は堂々たるものでした。

堀越さんは青嵐荘療護園に勤務し、館内の清掃や環境美化、洗濯業務等を担当しています。高等部に在学中である、平成二十一年十月より、十日あまりの現場実習を三期、合計三十日程行いました。

実習の中の彼女は、一つ一つ丁寧に作業を行い、その日に出来た事、出来なかった事を自分でノートに書き記して把握します。そして翌日、出来なかつたことを出来るようにまた業務に励みます。このまじめさが入職への確信を得ました。また、同じ養護



学校を卒業した先輩から指導を受けたことからも励みになったようです。

彼女は、芳香会の宿泊施設で一人で暮らし仕事をしている毎日です。これまで賑やかな環境で生活していたので、初めは寂しくて泣いてしまう事もありました。次第に慣れ、今では社会人として自立する事の喜びを感じ、出来る事も増えました。

これからも、元気に活躍されることを期待しています。



堀越さんに聞いてみました。入社して如何ですが？

はじめは不安でしたが、利用者や職員に励まされながら、楽しく仕事をしています。いろんな仕事を覚えていきたいです。

芳香会スケジュール

- 五月十一日 法人内ヒアリング
- 五月十六日 監事ヒアリング
- 二十二日 理事・評議員会
- 二十八日 本採用辞令交付式
- 六月下旬 役付職員研修会
- 七月下旬 個人情報保護推進委員研修会
職員福利厚生

第一回お楽しみくじ

編集後記

先日、ある介護系の専門学校の入学式に出席しました。社会人の男女が多く驚きました。資格取得可能な学校の多くがこのような傾向にあると聞きませぬ。十八歳のみならずにもがんばって欲しいと願わずにはいられませんでした。(光)

長女が四月に小学生になり、自分が通っていた小学校に入学しました。二十数年ぶりに訪れた校舎。教室や設備は新しくなっていました。が、変わらないのが校歌。長女の入学式で校歌を口ずさんでいる私がいま。(浩)

四月中旬、観測史上最も遅い降雪が記録されました。雪も見納めでしょうが、ウィンタースポーツが好きな私は早くも次の冬が気になります。暖冬でバンクーパー五輪も雪不足でしたが来年はどうでしょうか？ (裕)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkougai.or.jp> メールアドレス honbu@houkougai.or.jp

写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。